

あきた

Acci
AKITA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

商工会議所報

No.800

2017 May 5

- ③ 秋田商工会議所110年のあゆみ
- ⑩ コレアキッ!
- ⑭ 販路開拓促進事業
- ⑮ 補助金等企業支援施策



昭和22年6月(1号)



昭和24年9月(28号)



昭和45年1月(236号)

当所創立110周年・所報創刊800号記念号



昭和56年4月(367号)



平成3年4月(487号)



平成14年4月(619号)

今月の表紙は所報誌面の主な変遷をご紹介します。
ぜひ社内回覧をお願いいたします。



秋田商工会議所
URL <http://www.akitacci.or.jp/>
E-mail info@akitacci.or.jp



当所創立110周年 ・所報創刊800号を迎えて

秋田商工会議所は、明治40年12月20日に前身の秋田商業会議所として創立されてから、今年で110周年を迎えます。

長い歴史の中で、諸先輩方はそれぞれの時代において、当所を中心に結束を強め、優れた先見性とたゆまぬ努力を持って幾多の難局と試練に立ち向かい、地域経済の発展と今日の社会の礎を築いてこられました。この110年の歩みは、先人諸賢の果敢な挑戦の歴史であり、経済発展の軌跡そのものであります。

現在の本県経済は、県人口が100万人を割り込み、後継者不足や人手不足が深刻な状況にあるほか、国内経済はデフレ脱却には至っておらず、世界情勢の急激な変化は我々会員企業にも影響を及ぼしています。

このような時代に我々は、これまで築き上げられた110年の歴史を受け継ぎながら、現下の重要課題の克服はもとより、新たな時代の繁栄を目指し「新たな挑戦で元気創出」の

スローガンのもと自らが行動し、全会員一丸となって邁進しなければなりません。

「あきた商工会議所報」は、戦後の混乱が続いていた昭和22年6月、第6代会頭西村慶造の時代に機関紙「商工秋田」として創刊され、今月号で800号となりました。当時の西村会頭は「会員との連絡協調を密にするため」と記しており、今日に至るまでその意思を受け継いで発行してまいりました。

ここに、当所創立110周年と所報創刊800号を記念して特別号を発行し、110年間の先人の軌跡をご紹介しますので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

引き続き、地域社会に貢献する総合経済団体として、会員企業の繁栄並びにふるさと秋田のため行動してまいる所存ですので、今後とも皆様方からの倍旧のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

秋田商工会議所 会頭 三浦 廣巳

記念事業のお知らせ

■創立110周年記念式典

日 時 平成29年9月26日(火) 14:00~17:30(予定)
場 所 秋田県民会館
内 容 第1部 優良社員表彰式
第2部 記念特別講演会
第3部 記念式典(功労者表彰、大会決議ほか)

■創立110周年祝賀パーティー

日 時 平成29年9月26日(火) 18:00~
場 所 秋田キャッスルホテル

■記念事業

- ・ 共済制度加入者還元事業
- ・ A K S 起業家大賞
- ・ 女性の活躍推進事業
- ・ 秋田市の工芸品企画展
- ・ 寺町探訪ツアー

※詳細は決まり次第、所報誌面等にてお知らせいたします

秋田商工会議所110年のあゆみ

1907～2017

組織

創立以前

日本の魁となったのは明治11年(1878年)渋沢栄一らが中心となって設立した東京商法会議所。秋田では明治14年(1881年)、渋沢に勧められた廻船問屋で豪商の菅礼治が土崎港町に秋田商法会議所を設立した。

当時の会頭は菅で、副会頭は薬種小問物問屋の佐野八五郎、議員は45名で、事務所は土崎港上酒田町29番地に置いていた。

明治21年(1888年)、全国の動きに合わせて秋田商工会に改称。その後、活動が一時中断したようだが、政府が明治23年(1890年)に商業会議所条例を、明治35年(1902年)には商業会議所法を制定し、組織の法整備が進んだことを受け、秋田でも明治38年(1905年)、秋田商工会が商業会議所の発起人会を開催。「秋田商工会議事細則」を定め、「会報」第1号を発行するなど、新たな枠組みへ向けた準備が進められた。

当時の会長は辻兵吉、事務所は茶町梅ノ丁1番地であった。

秋田商業会議所

初代会頭 辻 兵吉 1908年(明治41年)3月～1912年(大正元年)10月



初代
辻 兵吉

秋田商業会議所の初代・代会頭は、会の設立認可、議員選挙など役員体制の整備、事務所の開所など会の基盤整備に努めたほか、政府などに積極的に建議するなど活発な意見活動を展開し、会の礎を築いた。

明治40年(1907年)8月28日、辻兵吉をはじめとする秋田市、南秋田郡土崎港町、河辺郡牛島町の代表65名の名で農商務大臣宛に設立発起の認可を申請。同年12月20日に設立申請が認可。秋田商業会議所が産声をあげた。

翌明治41年(1908年)1月31日、会議所運営の基礎となる第1回議員選挙が行われ、35名の当選者が決定。続いて、2月27日に初の議員総会が行われ、秋田銀行頭取で呉服太物商の辻兵吉が会頭に選出された。

第2代会頭 佐野 八五郎 1912年(大正元年)10月～1914年(大正3年)5月

全国各地で商業会議所の設立が進んだ明治44年(1911年)、東北6県の地域間組織として奥羽商業会議所連合会が結成され、当時副会頭であった佐野八五郎らが出席し、東北全体の商工業に関する問題を話し合った。

佐野会頭は、大正3年(1914年)には、従来秋田市が主催していた観桜会を会議所の主催で実施。市当局の申出を受けたこともあるが、観桜会を商品販売の機会にしようとする狙いもあった。

その後、観桜会は恒例行事として定着して行ったが、大正13年(1924年)の会議所編「月報」40号によると「芸妓手踊、サイサイ踊、棒上り等の余興に煙火を打揚げ、市内の点灯数を増して景気を添え、秋田駅発着の各列車悉く満員の盛況を告げ、市内大いに賑はひたり」とあり、相当な賑わいであったことが分かる。



第2代
佐野 八五郎

第3代会頭 加賀谷 長兵衛 1914年(大正3年)6月～1922年(大正11年)3月



第3代
加賀谷 長兵衛

会議所は、発足当時(明治41年-1908年)から羽越沿岸鉄道建設を政府に、秋田市への甲種商業学校設立を県知事に建議するなど、活発な意見活動を行ってきた。

加賀谷会頭の時代も、大正7年(1918年)には、秋田駅改善請願書を鉄道院総裁に、物産陳列所改築意見書を秋田県知事に、商業学校設立意見書を秋田市長に提出。大正10年(1921年)には秋田-東京間長距離電話新設、秋田-土崎間回線増設などを請願するなど、次代を拓く各種意見活動を繰り返した。

また、大正7年(1918年)には店頭装飾競技会を、同9年(1920年)からは店員徒弟表彰(優良勤続者表彰)をスタートさせるなど、秋田市の商店経営の改善と労働者の資質向上に努めた。



初代所屋(1918～1925年)

第4代会頭 辻 兵吉 1922年(大正11年)3月～1937年(昭和12年)5月



第4代
辻 兵吉

辻会頭が選任された大正11年は、奥羽線に急行列車が運転開始となり、また同13年には羽越線が全通し秋田市で全通式が開催されるなど、本市が本州北部の中心として発展してきた時代だった。

大正14年には、日ソ基本条約が調印されソ連との国交が回復。川崎汽船が船川港を含む北日本各港とウラジオストク間の定期航路を開設。船川港代理店である中川合資会社が浦塩視察団を募り、商業会議所のメンバーも同行し、ソ連、朝鮮、中国との交易を視野に入れた活動が始まった。

こうしたなか、辻会頭は、交易発展に欠かせない土崎港の修築へ向け強力な請願活動を行った。土崎港は河口港で毎年大量の土砂が堆積し、また、冬季の強い西風で荷役に難があったことから、暴風波堤防の築堤も必要であった。そのため、船川港の整備が先行したが、大正15年に土崎築港計画大要ができ、雄物川旧河口を締め切り砂丘を切り開き日本海へ通水することになった。

同年には土崎港修築を、昭和2年には雄物川改修工事の速成を政府に請願、ようやく昭和3年に雄物川旧河口が締め切られ、土崎港築港起工式を迎えることができた。

この間、大正12年には年2回発行の広報誌「秋田商業会議所報」を毎月発行の「月報」と改め、情報発信力を強化。また、昭和3年には商工会議所法施行により秋田商工会議所と改称した。



モダンな所屋(1926～1960年)

第5代会頭 石川 信助 1937年(昭和12年)6月～1946年(昭和21年)10月



第5代
石川 信助

辻会頭が貴族院議員に当選したことを受け、それまで副会頭を務めていた石川信助が会頭に就任した。

石川会頭は、雄物川改修工事による土砂を利用し茨島の湿地帯を埋め立て66万㎡に及ぶ工場地帯を造成する事業に着目。当時の鈴木安孝市長と連携し工場誘致運動を展開。朝日化学(東北肥料)、東北振興秋田鉄工(東北機械製作所)、三徳工業や新屋町への東北振興パルプの設立に尽力し、茨島工業地帯の開発に努めた。

また、昭和13年には応召事業者の営業継続援護のための商業奉仕委員規定を定めたり、昭和16年には秋田市商業報国会青年隊を結成、商業翼賛ショーウィンドー装飾競技会を開催するなど、戦時下での商工活動を支援した。

しかし、戦局は拡大。昭和18年(1943年)に商工経済法が公布され、商工会議所に代わり全県を単位とした秋田県商工経済会が設立され、石川は会頭に就任。決戦経済の諸対策推進にあたった。

第6代会頭 西村 慶造 1946年(昭和21年)11月～1947年(昭和22年)6月

戦後の民主化運動が秋田県商工経済会の事務局にも伝播。赤旗を振り回しストライキが続くなど混乱し、昭和21年10月に石川会頭が退任。同時に組織も社団法人秋田県商工会議所として再出発した。

多くの人が公職追放で追われ、後任会頭が決まらなかったが、東北肥料の西村社長に白羽の矢が立ち第6代会頭になった。

この間、商工会議所は、昭和21年11月に日本商工会議所が創立され、翌22年6月に機関紙「商工秋田」創刊、労働運動の活発化に対応するため秋田県経営者協会を設立するなど、徐々に戦後の体制を整えていった。



第6代
西村 慶造

第7代会頭 山形屋 堅吉 1947年(昭和22年)7月～1948年(昭和23年)1月



第7代
山形屋 堅吉

西村会頭時代に会頭の職務を代行していた山形屋が後継会頭となったが、昭和22年(1947年)7月にキャサリーン台風が東北地方を襲い、前後20日間に及ぶ豪雨で秋田県は流失家屋733、浸水家屋40,200、死者33、冠水田地48,000町歩、流失埋没田地8,813町歩など直接被害約40億円、間接被害200億円と推計された。

山形屋会頭は、全役職員を動員して「水害対策調査班」を編成、現地の被害を調査。在京中の根本龍太郎副会頭(代議士)と密接に連絡をとり独自の対策を立てた。低利復興資金の早期融通を各金融機関に懇請。商工省や経済安定本部、日本商工会議所を訪れ、必需物資導入の急遽採択を促した結果、重要統制品の自転車やリヤカーをはじめ、畳、ガラス、障子紙、セメントなどが中央から会議所に大量に送り込まれ、被害地の業者に配分され、災害

の復旧に尽力した。

こうしたなか、戦後の民間貿易が再開され、県と商工会議所が共同で提唱し、昭和22年8月秋田県貿易振興協会の設立総会を開催した。

第8代会頭 栗原 源蔵 1948年(昭和23年)1月～1948年(昭和23年)11月

当時の商工会議所は総予算145万円で10数名の職員給与を支払うのが精一杯だった。

栗原会頭は、羽越線の工事完成を機に栗原組を設立。鉄道、トンネル、橋梁など次々に大工事を請負い、清水、鹿島、大成、飛鳥、大林など中央大手も一目置く存在だった。



栗原会頭が造成した将軍野遊園地

会頭就任前の昭和2年には、私財を投げ打ち3万3千坪からなる将軍野遊園地ルナパークを開園。秋田の人々を歓喜させた。

栗原会頭は就任時に、水害復旧対策および同工事の請負業者への特価対策、秋田港後方の交通輸送施設のため秋田電気鉄道の埠頭までの延伸などを打ち出したが予算がなく、再建整備対策委員会を設置し協議を重ねたが、妙案が浮かばず退陣した。



第8代
栗原 源蔵

第9代会頭 佐々木 惣一郎 1948年(昭和23年)11月～1952年(昭和27年)4月



第9代
佐々木 惣一郎

佐々木会頭の時代は、戦後、根拠法を持たずに再開した商工会議所活動の組織的、財政的、活動的な困難を象徴するものであり、また、こうした状況からの脱皮をはかった期間であった。

急務だったのは累積赤字の解消と信頼回復で、事務職員を全員解雇し、大所の会員に更生資金のカンパを依頼。佐々木会頭自ら資金繰りに奔走、事務局に日参し、戦後初の商工経済人新年名刺交換会をやり遂げた。

昭和24年(1949年)6月には来県した池田蔵相らに「商工会議所の強化とそのため法制化」を要望。昭和25年5月に成立した「商工会議所法」に基づき、同年10月全県組織の社団法人秋田県商工会議所から秋田市、南秋田・河辺・由利3郡からなる社団法人秋田商工会議所となり、佐々木が会頭に就任した。

佐々木会頭は管轄市町の商工業者の保護育成と県産業発展のため、行政、金融機関と連携し参与会を設置。地域振興にかかわる工場誘致、金融問題、鉄道・バス等の実現・改善、電源開発等について協議を重ね、実践的機関として機能させた。

また、佐々木会頭は、経済復興に伴う金融・中小企業問題にも取り組み、昭和26年4月設立の秋田県信用保険協会では初代会長に、同年11月設立の秋田県中小企業協会では初代理事長に就任(事務局も商工会議所)した。

さらに、官の色合いが強かった秋田県貿易振興協会を民間主体に切り替えるため、昭和26年9月佐々木会頭が会長に就任。事務局も商工会議所内に置き、貿易振興活動を強化することになった。

第10代会頭 辻 兵太郎 1952年(昭和27年)4月～1954年(昭和29年)6月

辻会頭は、秋田青年会議所(JC)の設立に中心的な役割を果たし、昭和27年(1952年)4月に当所において設立総会が開催された。また、中小企業協会の理事長も引継ぎ、商工会議所と一体で秋田県共済商工協同組合を昭和28年(1953年)4月に設立。火災、病气、死亡見舞金制度をスタートさせた。

昭和27年(1952年)10月には能代、大館、横手の商工会議所と秋田県商工会議所連合会を結成。辻が初代会長に就任し、農業偏重の方針を改め商工業の振興をはかるため県知事と県議会に対し県商工部の設置を陳情した。

また、この10月から機関紙「商工秋田」に併せ「中小企業ニュース」(中小企業協会)、「貿協ニュース」(貿易振興協会)、「JCニュース」(秋田青年会議所)を合同で発行することになり、情報発信の一元化をはかった。

さらに、これまでの社団法人では地域の総合経済団体としての役割が制限を受けることから、商工会議所法の改正が議論されるようになり、昭和28年10月に新法が施行され、秋田商工会議所も昭和29年(1954年)8月1日に社団法人から現在の特別認可法人となった。

なお、辻会頭は昭和28年(1953年)にウィーンで開催された第14回国際商工会議所年次総会に出席。帰国後病となり翌29年6月に長逝した。



第10代
辻 兵太郎

第11代会頭 本間 金之助 1954年(昭和29年)8月～1958年(昭和33年)11月

第11代
本間 金之助

本間会頭は、現在の商工会議所法に基づく新組織のスタートと同じ船出となった。

時代が復興から自立そして高度成長へと進む中、都市と地方の格差是正のため産業基盤の整備・拡充、商工業の発展に資する陳情・要望を積極的に行った。

なかでも、県が小畑新知事となり県財政再建の一環で「商工水産部」を整理の対象としたことについて、昭和30年(1955年)4月、本間会頭らが知事と緊急会談し存続を強く要望した。

また、地域経済に大きな経済波及効果をもたらす国鉄および五大会社(日石秋田精油所、東北パルプ秋田工場、東北肥料秋田工場、三菱金属製錬所、石油資源開発)と地元企業との受発注懇談会を昭和30年(1955年)12月市と共催で開催し、地元発注の拡大や経営の近代化などについて話し合った。

行政や議会との間では、昭和31年(1956年)2月、秋田市・市議会と商工振興懇談会を開催。八郎潟干拓事業実施促進と受け入れ態勢の整備など10項目を要望。同年12月の第2回懇談会では秋田市火力発電所の誘致など4項目を要望。この懇談を通じて商工会議所が中心となり「火力発電所誘致・建設期成同盟会」を結成し実現へ向け動き出した。

さらに、県知事、県議会、市との秋田県商工業振興懇談会を昭和31年(1956年)2月に開催。本間会頭が商行政予算の増加などを要望。小畑知事は県産品愛用運動の推進と県外進出の支援など5項目の施策を示し、県、秋田市、商工会議所が一体となって取り組むことを申し合わせた。

このころは、全国的に百貨店、購買会、消費生活協同組合の市場攻勢が問題となり「百貨店法」が制定され、これに基づき商工会議所にも昭和32年(1957年)7月に「商業活動調整協議会」が設置され、その後、大型店の進出などについて調整等が行われていくことになった。



50周年記念式典(1958年)

第12代会頭 三浦 傳六 1958年(昭和33年)12月～1969年(昭和44年)11月

三浦会頭の時代は、高度成長により中高卒者が県外就職で流出。労働力の確保・定着が深刻な問題となった。商工会議所と企業代表、県・秋田職業安定所の3者が昭和35年(1960年)8月に「中小企業雇用懇談会」を開催。社会保障や労働条件について意見交換を行った。昭和37年(1962年)1月には、商工会議所、市、秋田職業安定所による「雇用促進協議会」を発足させ、社会保障の確立や労働条件の改善などにより若年労働者の地元定着環境の整備改善に努めた。

また、昭和33年(1958年)の八郎潟干拓、同36年(1961年)の秋田国体に次ぐ一大事業として、同37年(1962年)に制定された「新産業都市建設促進法」に基づく秋田湾地区の指定について、商工会議所では秋田青年会議所、秋田港振興会と協力し同39年(1964年)



東北で最初の結成「会議所婦人会」(1961年)

10月「新産業都市指定促進商工業者大会」

を開き、官民一体の運動展開を決議。翌40年(1965年)11月に全国14番目の新産業都市として秋田湾地区が指定された。

さらに、秋田港の開港指定にも尽力し、昭和37年(1962年)以来、三浦会頭は秋田港振興会会長として県、秋田市とともに大蔵省や函館税関に強力に陳情。昭和40年(1965年)に指定を受け、外国との直接貿易が行えるようになった。

昭和35年(1960年)8月には事務所を秋田県産業会館に移転、経営指導体制が強化され、翌36年(1961年)9月には東北初の「婦人会」が当所内に結成された。

第12代
三浦 傳六

第13代会頭 前田 實 1969年(昭和44年)11月～1971年(昭和46年)7月

秋田銀行頭取であった前田は、会頭就任後、商工会議所の再建計画をスタートさせ、会議所活動を軌道に乗せた。

前田会頭は、事務局の整備強化をはかるため、新規採用を行うとともに秋田銀行から出向者を迎え、組織の再建をはかり、事務機器の導入、事務室の拡張、職員の資質向上に取り組んだ。

この頃、秋田市に公設の総合卸売市場を開設する機運が高まり、卸売商業部会などで

第13代
前田 實

検討した結果、昭和46年に秋田市へ「中央卸売市場開設に関する要望書」を提出。同年、当所内に「中央卸売市場開設促進委員会」を結成し、開設の推進役となった。



初の「会員大会」開催(1970年)

また、日用雑貨の卸団地化をはかるため、昭和44年(1969年)12月当所内に「秋田卸売総合センター建設特別委員会」を設置し準備を進め、翌45年7月協同組合秋田卸センターが設立認可された。

さらに、昭和45年(1970年)6月から当所内に秋田人材センターを設置。秋田公共職業安定所職員により専門知識を有する人材や職業経験豊かな人材の再就職斡旋を始めた。

昭和45年(1970年)11月には、第一回会員大会を開催した。(会員のつどい)と改称し平成23年(2011年)まで継続)

第14代会頭 松本 修二 1971年(昭和46年)8月～1986年(昭和61年)1月

松本会頭は15年にわたり会頭職を務め、堅実な手腕で当所の財政基盤を確立した。

昭和46年(1971年)4月に1,088事業所であった会員数を同60年(1985年)3月末には4,430事業所まで拡大。昭和45年(1970年)に導入した共済制度の拡充にも力を注ぎ、同57年(1982年)には生命共済制度契約高100億円突破、翌58年(1983年)には加入率51.1%を記録した。

経営指導体制を強化するため、昭和48年(1973年)には土崎、新屋に支所を開設。昭和51年(1976年)には経済4団体と連携し、現在の秋田県商工会館への移転を実現させ、本県の経済センターとしての役割りをスタートさせた。

大規模小売店舗法の施行に基づく商業活動調整協議会の活動にも調整力を発揮。秋田駅前再開発事業では、促進協議会の会長として、昭和55年(1980年)の南地区、同59年(1984年)の中央地区のオープンに尽力した。



第14代
松本 修二



当所青年部の前身である「青年経営者協会」設立(1972年)

本県経済の国際化にも貢献。昭和51年(1976年)には欧州経済視察を行い、同56年(1981年)には秋田・カナダ友好協会、秋田貿易振興会を設立。昭和60年(1985年)にはカナダ・ナナイモ商業会議所と交流促進のための合意書を交わした。

新秋田空港の開港に合わせたテクノポリス開発構想の地域指定にも尽力、在京経済人とのパイプを強め企業誘致に結びつけるため初の懇談会を昭和58年(1983年)に開催したほか、情報化社会の到来に備え同59年(1984年)には株式会社秋田ケーブルテレビを設立するなど、次代を見据えた指導力を発揮した。

第15代会頭 辻 兵吉 1986年(昭和61年)2月～1990年(平成2年)5月

辻家として4代続いて会頭職に選任された辻会頭は、翌年が当所の創立80周年に当たったことから、記念事業の実施に着手。昭和62年(1987年)には当所の歴史を初の正史としてまとめた「80年史」を編纂したほか、記念式典、おぼこ踊りの全国公募・中心市街地でのパレード、懸賞論文の募集、農工商連携を目的とした「あきたフェア」の開催など多彩な記念事業を展開した。この時制作した「秋田おぼこ音頭」は、翌年から竿燈まつりの前座イベント「おぼこ踊りフェスティバル」として定着し、平成25年(2013年)まで続いた。



おぼこ踊りフェスティバルの様子



サービス向上キャンペーンを展開(1988年)

また、産学官連携、異業種交流、広域観光などにも積極的に取り組み、特に交流人口の拡大へ向け接遇改善のため、昭和63年(1988年)にサービス向上キャンペーンを実施。平成元年(1989年)にはコンベンションビューロー秋田(現・公益財団法人秋田観光コンベンション協会)を設立した。

平成2年(1990年)には、21世紀へ向かって秋田県経済を牽引するため、秋田市を中心とした2市10町1村の広域的視点で秋田県都圏構想を作り上げるなど、卓越したリーダーシップを発揮した。



第15代
辻 兵吉

第16代会頭 塩田 雄次 1990年(平成2年)6月～1993年(平成5年)11月



第16代
塩田 雄次

羽後銀行(現・北都銀行)の会長であった塩田会頭は、温厚実直な人柄で、当所の財務委員長や理財部会長として長年会議所運営にも精通していたことから後継会頭に就任した。

就任直後は、既存の市街地で秋田地域商業近代化実施計画が策定中であったが、御所野ニュータウンへの超大型店の出店表明があり、モータリゼーションの進展や大型店の進出で商業環境やまちづくりが激変する中で会議所運営にあたった。

平成2年(1990年)には、御所野ニュータウンショッピングセンター対策協議会を設置、同4年(1992年)には改正大店法の施行に伴いまちづくり委員会を設置、同5年(1993年)には、県、秋田市と商業環境についてトップ同士の協議を行うため、小売商業環境整備推進連絡協議会(三者協)を発足させるなど、会員意見の集約と反映に努めた。

一方、平成3年(1991年)にはJR東日本本社へ秋田新幹線の実現を直接陳情。また、秋田-羽田線の増便と航空会社2社運航化など本県経済発展の基盤となる交通体系整備に、積極的に取り組んだ。

第17代会頭 辻 兵吉 1993年(平成5年)12月～2004年(平成16年)10月



第17代
辻 兵吉

3年半ぶりに再登板となった社会頭は、郊外型大型店の進出で空洞化が進む中心市街地のまちづくり、港湾、空港、貿易など国際化の推進、当所創立90周年事業、日本文化デザイン会議の開催などに力強いリーダーシップを発揮した。

まちづくり三法の施行を先取りし、平成6年(1994年)には市民参加による百人委員会を設置し、同8年(1996年)には「まちづくりマスタープラン」をまとめ発表。「まちづくりマスタープラン促進協議会」を設置して、提案された事業の推進にあたった。また、同年にはまちづくり三法などの趣旨に逆行する郊外大型店の増床に関する大店審の結審に対し通産大臣に抗議文を提出。翌9年(1997年)には、三者協の協議を経て日赤・婦人会館跡地等再開発準備組合の設立に尽力した。平成11年(1999年)には秋田市が策定中の中心市街地活性化基本計画に対応し「県都秋田の顔づくり」を提言。翌12年(2000年)にはTMO構想をまとめた。さらに、中心市街地へのアクセスを改善するため、平成9年、10年には無料買物バスを運行したほか、平成9年から商店街共通駐車券事業を試行。同13年から大型店も参加し本格実施に至っている。

貿易振興にも力を注いだ。平成6年(1994年)には、長年誘致してきたジェトロ秋田貿易情報センターの開所にこぎつけ、翌7年(1995年)には県・秋田市とともに秋田港国際化荷主協議会を設置し、国際コンテナ航路の開設とその後の航路拡充に尽力した。中国吉林省との経済交流にも傾注し、平成13年(2001年)には中国国際貿易促進委員会延邊支会との間で経済交流促進の覚書に調印。翌14年(2002年)にも経済交流会議の協議書にサインした。専門化する貿易相談に対応し、貿易推進組織の統合・一元化をはかるため平成16年(2004年)には社団法人秋田県貿易促進協会を設立した。

交通インフラの整備では、平成8年(1996年)に日本海沿岸東北自動車道早期建設期成同盟会を設立。同年32万人の署名を集め早期全線開通を強力に陳情。平成13年(2001年)の秋田-ソウル国際定期便の開設にも経済界を挙げて実績作りに取り組んだ。商工会議所の県連組織の強化にも取り組み、前任の平成元年(1989年)には湯沢、平成9年(1997年)には大曲の各商工会議所の設立に尽力した。

平成9年(1997年)には、当所の創立90周年記念式典を挙行。記念講演会、「大いなる秋田」の特別公演を実施したほか、90周年史「人間山脈」を発行した。また、翌10年(1998年)には、日本文化デザイン会議を開催。多くの文化人が秋田を訪れ、県民・秋田市民の感性を刺激した。

さらに、実現には至らなかったが、協同組合秋田協同流通センター、大王製紙秋田工場受注促進協議会の設立など業界を挙げた広域的な課題に取り組んだ。



「日本文化デザイン会議(1988年)」のポスター



秋田新幹線「こまち」出発式(1997年)

平成9年(1997年)には、当所の創立90周年記念式典を挙行。記念講演会、「大いなる秋田」の特別公演を実施したほか、90周年史「人間山脈」を発行した。

また、翌10年(1998年)には、日本文化デザイン会議を開催。多くの文化人が秋田を訪れ、県民・秋田市民の感性を刺激した。

さらに、実現には至らなかったが、協同組合秋田協同流通センター、大王製紙秋田工場受注促進協議会の設立など業界を挙げた広域的な課題に取り組んだ。

第18代会頭 渡邊 靖彦 2004年(平成16年)11月～2013年(平成25年)10月



第18代
渡邊 靖彦

渡邊会頭の時代は、リーマンショック後の長期にわたる景気低迷やデフレの進行に加え、平成23年(2011年)の東日本大震災が未曾有の災害をもたらすなど極めて厳しい環境のなか、小規模事業者の経営安定と人口減少・高齢化問題など地域課題の解決に取り組んだ。

平成18年(2006年)には低迷する本県の経済指標向上のため、秋田地域力向上戦略会議を官民47団体連携のもとに立ち上げ、その第一弾として秋田ふるさと検定を開始以降、秋田かやきの普及、秋田市観光光チコミ大使の委嘱、ウェルカムミュージック(歓迎民謡)など交流人口増加に向けた取り組みを次々に事業化した。

平成19年(2007年)は当所創立100周年にあたり、記念事業を盛大に挙るとともに未来委員会を設置し、将来人口が80万人を割り込むとされる2035年へ向けた対応策を検討した。

まちづくりでは、平成17年(2005年)新屋地区で「ももさだスタンプラリー」、同19年(2007年)土崎地区で「ship & ウォークラリー」を開催するなど地域振興に注力したほか、同年、秋田市中心市街地活性化協議会を設置し、秋田市中心市街地活性化基本計画の策定に尽力した。その計画の中心となる中通一丁目地区市街地再開発事業の推進協議会(4者協)に正式参加して整備方針を最終合意し、同24年(2012年)に「エリアなかいち」が中心市街地再生の核として竣工した。

経営指導分野では、平成17年(2005年)に会員ローンを創設したほか、同19年(2007年)には経営革新アドバイザーセンターの設置、早期転換・再挑戦支援窓口の開設、比内地鶏の表示偽装に関する特別相談窓口の設置など、専門家と連携し指導力の強化をはかった。また、挑戦する秋田、挑戦する人材の育成をスローガンに、平成16年(2004年)に凌雲塾を開講。同18年(2006年)にはビジネススクールとして体系化し、人材育成にも力を注いだ。

平成23年(2011年)の東日本大震災において、被災した地域の商工会議所を支援するため当所職員を応援派遣したほか、県に緊急保証制度の創設を要望し、震災による連鎖倒産を未然に防いだ。また、同年初開催した竿燈期間中のB級グルメフェスティバルに被災地からの避難者を招待し元気づけた。

日本海対岸諸国との交流においては、平成20年(2008年)に秋田港シーアンドレール構想推進協議会を設置し官民一体で構想実現に取り組むとともに、同24年(2012年)に中国国際貿易促進委員会延邊支会との経済交流協定を締結、同年ロシア沿海地方商工会議所とも経済交流に関する覚書を締結し、両地域経済団体との関係を構築した。

そして、都市と地方の格差是正のため、日本海沿岸東北自動車道などの道路網整備や、環日本海交流の拠点・秋田港の整備、景気低迷や原油価格高騰などにあえぐ中小企業対策などを強力に陳情した。



文化・交流の拠点「エリアなかいち」

第19代会頭 三浦 廣巳 2013年(平成25年)11月～現在

三浦会頭は、「新たな挑戦で元気創出」の一貫したスローガンのもと、明るく行動的な組織づくりとともに、「企業競争力強化へ向けた“攻め”の経営支援」「コンパクトシティ実現と秋田の魅力発信」「対岸諸国等との経済交流と海外販路開拓」を柱とした事業を展開している。強力なリーダーシップのもと平成26年(2014年)以降、組織強化に向けた会員増強運動を展開した結果、減少が続いていた会員数が増加に転じた。また、平成27年(2015年)に人口減少社会に対応した中期行動計画を策定し、秋田市産枝豆や工芸品など地域資源のブランド化や交流人口の拡大等を推進している。

経営支援においては、平成26年(2014年)に秋田県事業引継ぎ支援センターを設置し、中小企業の円滑な事業承継を推進するほか、同28年(2016年)には国から経営発達支援計画の認定を受け、小規模事業者の販路開拓支援や創業支援に取り組んでいる。

平成27年(2015年)には東北六魂祭の秋田市開催を成功させ、同28年(2016年)には新たな春の大型イベントとして中心市街地を会場に「これが秋田だ!食と芸能大祭典」を初開催し秋田の魅力発信した。また、平成27年(2015年)からはエリアなかいちにおけるミュージカルのロングラン公演や「ギュギュッとあきた週末イベントラリー」の実施により中心市街地の賑わいを創出している。



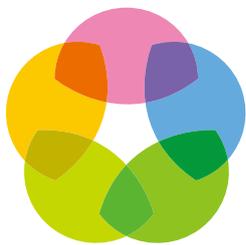
日中露3地域経済交流会議

また、北東アジア地域と秋田港を結ぶ国際コンテナ輸送回廊の推進、日本海対岸諸国との貿易・観光交流の推進に向け、平成26年(2014年)に中国国際貿易促進委員会延邊支会およびロシア沿海地方商工会議所との第1回日中露3地域経済交流会議を秋田市において開催し、3団体による経済交流に関する合意書を締結した。

さらに、環日本海交流の拠点として将来を見据えた秋田港の港湾機能強化を関係機関へ要望するほか、高速道路の整備促進について官民一体で国へ要望を重ね、悲願である県内高速道路の全線開通に向け全区間が事業着手されることとなった。



ユネスコ無形文化遺産登録
県内3行事も集結!



これが秋田だ! コレアキッ! 2017
食と芸能大祭典



イベント
総合プロデューサー
元祖爆笑王

あきた
観光レディー

アゴラ広場で[前夜祭]
5月26日(金)・27日(土)・28日(日)

17:00~21:00
※15:00からプレオープン

10:00~20:00

10:00~17:00

[会場] アゴラ広場・エリアなかいち・広小路・仲小路
主催/これが秋田だ!食と芸能大祭典実行委員会

伝統芸能パレード

●日時 5月27日(土)18:00~19:45
28日(日)15:00~16:45

●会場 秋田市広小路

演目 (市町村)	
竿燈まつり (秋田市)	花輪祭の屋台行事 (鹿角市)
三吉神社梵天祭 (秋田市)	土崎神明社の曳山行事 (秋田市)
綴子大太鼓 (北秋田市)	角館祭りのやま行事 (仙北市)

演舞ステージ出演団体

- 日時 5月27日(土)10:00~17:00
28日(日)10:00~14:00
- 会場 なかいちにぎわい広場特設ステージ
アゴラ広場特設ステージ

演目 (市町村)
屋敷番楽 (由利本荘市)
五城目大翔太鼓 (五城目町)
冬師番楽 (にかほ市)
大館曲げわっぱ太鼓 (大館市)
桜爛太鼓 (井川町)
成瀬仙人太鼓 (井川町)
清原紅蓮隊 (横手市)
なまはげ太鼓 (男鹿市)
長信太太鼓 (三種町)
願人踊り (八郎潟町)
湯沢南家佐竹太鼓 (湯沢市)
石川駒踊り (八峰町)
西馬音内盆踊り (羽後町) 他



昨年の秋田駅西口にぎわい風景

飲食出店ブース

- 日時 5月26日(金)15:00~21:00
※駅前アゴラ会場のみ営業(前夜祭)
- 27日(土)10:00~20:00
- 28日(日)10:00~17:00

うまいもの広場出店者(駅前アゴラ会場)

出品内容 (出店者名)
日本海ずわい蟹汁かやき (秋田屋台村なかや)
チーズお好み焼き (光琳グループ)
比内地鶏だしのまぜそば (ノリット・ジャパン)
いぶりがっこ (BARいしだりゆういち)
こまちアイス (榊雄和振興公社)
花輪ホルモン柔らか煮込み (花輪しばらくやホルモン)
秋田由利牛焼きそば (道の駅にしめ マルサン青果センター)
横手焼きそば (北海屋)
ポリューミー&ジューシー スパイシー餃子 (秋田ビューホテル)
秋田かやき (カレーハウスプー)
比内地鶏の中華そば (麺喰うがっ!?)
秋田素材のファーストフード桃豚ぶたんぼ (桃豚ぶたんぼ本舗)
能代白神ねぎラーメン (花ふじ)
秋田牛串焼き (榊秋田県食肉流通公社)
しょつつるたこ焼き (居酒屋くうべえ)
オリジナルカクテル (ラジオスパー)
オリジナル珈琲 (アメヤ珈琲)
バター餅コロツケ (中央菓工 きた)
地酒 BAR (秋田市民市場)
比内地鶏田楽 (ラーメンショップ味軒)
秋田牛串焼き (レストランルセット)
きりたんぼ鍋 (尙齋藤昭一商店)
秋田あくらビール (あくら)
秋田牛まぜそば (コジコジ)
シェフの具だくさんミネストローネ (ホテルメトロポリタン秋田)
男鹿しょつつる焼きそば (男鹿海鮮料理三代目ほたる)
秋田のお菓子 (秋田県菓子工業組合)
秋田かやきしょつつる漬イカ焼き (米沢牛 竹嶋)
バリコロ串 (農業組合法人河辺農産加工組合)
秋田由利牛のメンチカツ (TK フーズ)
秋田由利牛 (天下一番追分店)
秋田産 豚串焼き (おかず家)
いわな炭火焼 (川魚の茶屋)
米粉のお好み焼き (秋田印刷製本株)
ババヘラスノー秋田雪 (尙進藤冷菓)

うまいもの広場出店者(なかいち会場)

出品内容 (出店者名)
鳥海なめこ鍋 (秋田かやき協議会【秋田市】)
横手焼きそば (横手焼きそばサンライ 'S【横手市】)
白神ねぎ焼き (のしろ来・来・来【みらい】【能代市】)
本荘ハムフライ (本荘ハムフライ・ハム民の会【由利本荘市】)
大曲カレー旨麺 (大曲カレー旨麺同好会【大仙市】)
よこまき (幸せまきまきよこまき。の会【横手市】)
男鹿しょつつる焼きそば (男鹿のやきそばを広める会【男鹿市】)

進藤新会長が就任 ～青年部(秋田YEG)定期総会～

4/13

会員81名が参加し、平成29年度事業計画・予算等を承認した。

今年度のスローガンは「活力と魅力あるI・S・N・Aの実現へ～継げよう一人ひとりの夢を 続けよう地域創生に向けたYEGの行動～」。新会長に就任した進藤文仁氏(株マルシン代表取締役社長=写真)は『会社』と『社会』の両輪が相まってこそ持続可能な企業と地域社会の実現がなし得る。人口減少社会に対し、秋田YEGは勇気を持って積極果敢に立ち向かって参りたい」とあいさつした。

今年度の事業計画は、① (Identity) 地域的一体感の確立による持続可能な社会の形成、② (Spirit) 創始の精神を共有し地域の活性化を図る、③ (Network) 強固なネットワークの構築による経済発展への寄与、④ (ALL 秋田の実現へ) 地域創生に向けたオンリーワンの郷づくりの4項目。



クルーズ入船情報を共有 ～第1回観光料飲部会(オープン)～

4/18

33名が参加し開催。今年度、本県で延べ26回の寄港が予定されている「クルーズ入船情報と受入体制」について、県・市のゲストを迎え懇談した。

県建設部港湾空港課の吉田和重副主幹は外航クルーズ船の寄港予定や港での受入体制等について説明。「2019年4月のクイーンエリザベス号寄港も決定し、観光客の増加に伴う経済効果が期待できる」と述べた。秋田市観光文化スポーツ部観光振興課の小山田邦子課長は、内航クルーズ船の受入体制について「ユネスコ無形文化遺産に登録された土崎神明社祭の曳山行事など、秋田の観光・



松村部会長挨拶(左)

食・伝統芸能等の魅力をPRし、寄港増加と定着化に繋げたい」と説明。参加者からは「県と市で邦船・外国船の対応を住み分けせず一体となって取り組むべきである」等の意見があった。

秋田への想い再確認し積極的にPRを ～秋田市観光クチコミ大使情報交換会～

4/19

秋田市出身の経済人や過去に赴任経験のある方々など、クチコミ等での情報発信を通じて秋田市の観光の魅力を伝える「秋田市観光クチコミ大使」27名が参加し東京で開催。今年度から就任する柴田康之氏(株博報堂)と、野見山浩平氏(日本銀行)に委嘱状を手交するとともに、昨年4月の交流会以降に大使に就任した5名と合わせて、秋田への想いと大使としての抱負をスピーチしていただいた。

松尾沙樹氏 ヴァイオリン披露
「浜辺の歌」

その他、浅利香津代氏や大釜茂璋氏から活動報告をしていただいた。

会場内では、お互いに近況報告したり、秋田について語り合うなど和やかに交流を深めていた。今後とも積極的に観光PRに努めていくことを誓い合って閉会した。

県・市の29年度重点施策について懇談 ～第1回建設部会～

4/21

部会員31名が出席し、秋田県建設部の柴田公博建設技監と秋田市建設部の平山義尚次長をゲストに迎え懇談した。

柴田建設技監は「建設業の担い手確保に向けた取り組みを進めるため、完全週休2日モデル工事を実施するほか、行政・教育・業界の連携強化による人材育成システムとして『建設産業担い手確保育成センター(仮称)』を設置し、建設業の人材育成に関する情報を共有化する」と説明。

平山次長は「市の財政状況は厳しいが、インフラなどの必要不可欠な建設事業が実施できるよう、これまで以上に選択と集中による効率的・効果的な事業を推進していく」と説明した。



秋田県柴田建設技監



秋田市平山次長

第2期中心市街地活性化基本計画の説明会開催 4/25
～第1回商業部会(オープン部会)～

3月に認定された中心市街地活性化基本計画について、秋田市都市総務課長の根田隆夫氏と企画調整課長の齋藤一洋氏を迎え懇談、41名が参加。

根田課長からは県・市連携新文化施設や秋田版CCRCなどの計画に盛り込んだ事業概要に加え、歩行者通行量などの目標指数を説明。「活力とにぎわいを生み出す中心市街地を形成したい」と述べた。引き続き齋藤課長からは、新文化施設と既存文化施設が面的に連携する「芸術文化ゾーン」について説明。「芸術文化は、地域資源として魅力あるまちづくりの形成につながる力を持っている。中心市街地の魅力向上につなげていきたい」と述べた。



根田課長 齋藤課長

そろばん日本一を目指し競い合う 4/29
～そろばんグランプリジャパン2017秋田県大会～

44名が参加し当所ホール80で開催。年代別に3つの部門に分かれ、6種目の合計点を競う個人総合競技など4競技を行い、計算のスピードや正確さを競い合った。



開始前の緊張感が漂う会場

同大会は、7月23日に神戸市で開催される「そろばんグランプリジャパン2017」(そろばん日本一決定戦)への秋田県推薦選手の選考も兼ねており、秋田県代表選手5名が推薦された。

●そろばん日本一決定戦秋田県代表選手

部門	氏名	所属
ジュニア	鈴木 愛菜	八橋小5年(秋田あんざんアカデミー)
〃	高山 皐	八橋小4年(〃)
スクール	石澤 真太郎	明桜高3年(千種珠算学校)
〃	鐘 裕子	羽城中3年(〃)
シニア	畠山 智晴	大館商業OB

専門家が経営相談に応じます。 相談料無料・秘密厳守

当所では、資金繰りに関する不安や、需要の低迷による経営計画の見直しなど、皆様が抱えている様々な経営課題に対し、「経営・法律・労務・税務・創業・事業計画・知的財産」の各分野の専門家による個別相談を実施し、課題解決のお手伝いをしております。

私たちがアドバイスいたします ～当所が委嘱する商工調停士12名～

木元 慎一
(弁護士)



債権回収、事業承継など法律に関する相談に応じます。

山本 隆弘
(弁護士)



債権管理、契約チェックなど法律問題全般に関するご相談に応じます。

河野 隆治
(公認会計士・税理士)



事業計画の作成・事業承継など経営・税務に関するご相談に応じます。

田口 幹夫
(税理士)



経営改善、事業再生など経営・税務に関する相談に応じます。

岡田 啓充
(社会保険労務士)



会社を守る就業規則作成方法、雇用トラブルなど労務に関する相談に応じます。

小笠原 浩之
(社会保険労務士・中小企業診断士)



経営力強化のための人事制度構築や業務改善など、労務や経営に関するご相談に応じます。

佐藤 善友
(中小企業診断士)



事業計画の見直し、収益確保の戦略構築など経営に関する相談に応じます。

佐瀬 道則
(中小企業診断士)



経営改善、マーケティング、収益確保など、どんな経営課題でもご相談に応じます。

藤崎 學
(中小企業診断士)



顧客の開拓、人材の活用、会社の目標づくりなど経営に関するご相談に応じます。

柿崎 博美
(シニアインキュベーションマネジャー)



起業支援、事業化、商品開発、産学官連携など経営に関する相談に応じます。

大野 政人
(シニアインキュベーションマネジャー)



補助金申請、起業支援、事業支援など経営に関する相談に応じます。

齋藤 昭彦
(弁護士)



商標、特許、実用新案など知的財産に関する相談に応じます。

○相談方法

まずはお問合せください。相談日時を調整し、必要となる資料等を事前にお伝えしたうえで、後日面談させていただきます。必要に応じ、専門家相談を活用した経営面での支援のほか、金融機関、秋田県信用保証協会、秋田県中小企業再生支援協議会と連携した金融面の支援など幅広い分野で対応させていただきます。《お問合せ》秋田商工会議所 経営支援課 TEL: 866-6677

商談会等に出展する際の費用を助成します!

販路拡大に取り組む事業所を支援するため、全国の商工会議所が主催・共催・後援で開催する商談会や展示会に出展する会員事業所に対して、その費用の一部を助成しています。

- 参加料・出展料** 1商談あたり **3,000円** (上限)
- 旅費交通費** **20,000円** (上限) ※鉄道賃・バス賃・車賃・航空機賃 いずれかの手段で1名分
- 対象となる商談会** 伊達な商談会、ビジネスマッチ東北、にいがたBIZEXPO、買いまっせ! 売れ筋商品発掘市、東京インターナショナルギフトショー、ビジネスマッチ@FTJ
※上記以外にも対象となる商談会等ございます。

■ 詳しい内容につきましては、下記問合せ先までご連絡ください。



仙台商工会議所で、東北の商工会議所会員企業を対象に、事前予約型個別商談会「伊達な商談会」を開催し、カテゴリーごとのバイヤーと定期的な商談会を実施しています。

当所経由で参加された会員事業所は、上記の補助を活用することができます。

スケジュール等については、HPでご確認ください。

秋田商工会議所 伊達な商談会 [検索](#)

《当所会員参加事業所 事例》 ノリット・ジャポン(株)

高瀬物産(株)との個別商談会へ参加。新製品である「アイスクリーム」「チーズ」をはじめ、自社の調味料シリーズや県内メーカー商品を紹介。秋田の食材を使用した製品の珍しさと、味の良さを評価していただき、ご注文や継続した商談に繋がった。



戦略的販路拡大セミナー

～商品のブラッシュアップ、そして商談会出展により新規開拓・販路拡大を～

商談会への出展を検討している会員事業所を対象とした『戦略的販路拡大セミナー』を開催いたします。講師に、電通(株)ビジネスクリエーションセンター専任次長の金井毅氏をお招きし、ご講演いただきます。

- 日時** 6月21日(水) 13:30～16:30
- 場所** ホテルメトロポリタン秋田 4階

■ 詳しい内容につきましては、同封しておりますチラシをご覧ください。

● 問合せ・申込先 秋田商工会議所 経営支援課 ☎866-6677

事業主の皆様へ 今こそ!人材の育成・確保へ **キャリアアップ助成金**

新たに雇用または自社で雇用している**契約社員**や**パート社員**等を自社の**正社員**として雇用することを目指して、自社内で**実習(OJT)**と**座学(OFF-JT)**を組み合わせた**訓練(有期実習型訓練)**を実施した企業に**助成金**が支給されます。「ジョブ・カードセンター」が提出書類の作成支援をいたします。
※下記の助成額はいずれも中小企業の場合です。また()内は生産性の向上が認められる場合の額です。



『有期実習型訓練』 の対象者

- 訓練を実施する分野の仕事で過去5年以内に正社員として概ね3年以上継続して雇用されたことがないなど、訓練を実施することが適当と判断され、ジョブ・カードの交付を受けた者
- 訓練を実施する企業と「期間の定めのある労働契約を締結する者」など

『有期実習型訓練』 の主な要件

- 訓練期間……………**3カ月以上6カ月以内**
- 総訓練時間数……………**6カ月当たり425時間以上**
- 総訓練時間数に占めるOJTの割合…**1割以上9割以下**

『キャリアアップ助成金』 の内容

- OFF-JT** 1時間あたり
1人 **760(960)円**支給
- OFF-JT** 外部機関に委託した場合など
上限 **30万円**まで支給
- OJT** 1時間あたり
1人 **760(960)円**支給

訓練終了後、正社員化コースが利用できます
正社員化コース キャリアアップ助成金で正社員化コースを活用すると助成金が支給されます。
・1人当り28.5万円(36万円)～57万円(72万円)
(キャリアアップ計画に明記し、就業規則または労働協約で定めることが必要です)
※お問い合わせは最寄りのハローワークへ

「ジョブ・カード普及サポーター企業」の登録をお願いします!!



ジョブ・カードを採用面接の応募書類として活用するなどジョブ・カード制度に賛同いただける企業のみなさま、ぜひご登録をお願いします!

お問い合わせ先 秋田県地域ジョブ・カードセンター ☎863-9123
(秋田商工会議所内)

平成29年度 補助金等企業支援施策の紹介

平成29年度の企業支援施策の一部を紹介しますので、是非ご活用ください。

【日本商工会議所】

◆小規模事業者持続化補助金

【内 容】小規模事業者を対象に、経営計画に基づき商工会議所の支援を受けながら実施する販路開拓等の取り組みに対して補助

【対象経費】機械装置等費、広報費、展示会等出展費等、販路開拓の実施計画に必要な経費

【補助金額】限度額 50万円 補助対象経費の2/3以内

【募集期間】5月31日（水）まで

【問 合 せ】秋田商工会議所 経営支援課 TEL:866-6677

【秋 田 県】

◆がんばる中小企業応援事業

【内 容】自社の競争力の強化を図ろうとする県内中小企業を「がんばる中小企業」として採択し、その企業が行う取り組みをソフト・ハード両面から支援

※今年度より、提出書類に支援機関（金融機関・商工団体等）の確認書が必要

【対象経費】・人材育成、専門家活用等、取組の実施に必要な経費

・機械器具等の導入に要する経費（生産設備の導入は雇用の維持が要件）

【補助金額】限度額 製造業：1,000万円、非製造業：500万円

補助対象経費の1/3以内（小規模事業者、ベンチャー企業は1/2以内）

【募集期間】第1回 5月19日（金）まで ※第2回は9月頃

【問 合 せ】製造業：秋田県産業労働部地域産業振興課 地域産業活性化班 TEL:860-2231

非製造業：秋田県産業労働部商業貿易課 商業・創業支援班 TEL:860-2244

【秋 田 市】

◆中心市街地商業集積促進事業

【内 容】秋田市中心市街地内（中心市街地活性化基本計画で定める地域）の空き店舗および大型商業施設内の空きテナントへの出店に係る費用の一部を補助

※平成29年度より補助内容を拡充

【対象経費】（1）改装費（2）広告宣伝費（3）賃借料等

【補助金額】（1）限度額 100万円 補助対象経費の2/5以内

（2）限度額 20万円 補助対象経費の2/5以内

（3）限度額 150万円 補助対象経費の1/2以内、補助期間24ヵ月分

※賃借料に対する補助期間は区域により異なる場合があります

【募集期間】平成30年1月31日（水）まで ※予算額に達し次第公募終了

【問 合 せ】秋田市産業振興部商工貿易振興課 商工振興担当 TEL:888-5728

各補助金の詳細は、当所ホームページ>>経営支援情報>>国・県・市等補助金・助成金情報
(<http://www.akitacci.or.jp>)より確認できますので、ご覧ください。

■問合せ/経営支援課 TEL 866-6677

助成金の申請

しております。

中小企業活性化サポート



秋田市御町1-3-2 秋ト協ビル
TEL 018-853-5005

社会保険労務士 高橋 朱実
社会保険労務士 富沢 克次
社会保険労務士 武田 明子



この環境を守らなくては…

大洋ビル管理株式会社

代表取締役社長 内村 和人

秋田市旭北錦町1番14号 秋田ファーストビル3F
TEL 018-865-0601 FAX 018-865-0612
E-mail: soumu@taiyo-bldg.jp

小規模事業者(従業員20人以下・商業・サービス業は5人以下)向け、無担保・無保証人・低利(4月12日現在1.11%)の「マル経融資」をご利用ください。【経営支援課 TEL.866-6677】



ようこそ!会議所へ

新会員紹介

企業のやる気を応援します!

信用の証し

「会員章プレート」を掲げて
会議所会員をPR
※販売価格 2,160円(税込)



BRUM

美容業
伊藤 満
893-3882
手形字山崎169

(株) SECTION

自動車販売、修理
池田 訓
827-6418
外旭川八柳三丁目12-13

(有) 創 芸

アクリル加工
相原 奈緒美
895-8817
鉦町一丁目9-22

(株)仲村保険サービス

秋田支店
保険代理業
仲村 厚悦
874-7755
大町一丁目2-1

(有)有明商店

老人介護施設経営
有明 商店
833-3236
中通四丁目16-20

(有)ワタナベ燃料

LPガス販売、灯油販売等
渡部 守
883-5300
保戸野桜町6-16

南通行政書士事務所

官公庁に提出する申請書類作成
松本 寿子
807-3187
南通亀の町10-38

フォローウィンド(株)

ストレッチ専門店、他
高田 圭子
874-8319
泉北四丁目2-10

ペットサロン さんきち

愛犬美容
遠藤 洋幸
080-5739-7116
寺内イサノ68-7

(有)アヴァンティ

不動産(貸家・アパート)
松田 忠
834-2721
広面字土手下103-4

TKフーズ

移動販売車による販売、
イベント出店等
竹内 克哉
090-9698-0627
仁井田二ツ屋二丁目3-25

ナラ農場

エディブルフラワーの販売
奈良 隆逸
873-4712
金足小泉字上前9

ワンワンサロン わんまる。

トリミングサロン、ペットホテル
工藤 明美
829-1154
仁井田字新中島1083-9

カースマイル秋田

車販売
畠山 潤
853-1789
川尻町大川反233-12

(株)エイチ・アイ・エス

旅行商品の販売
黒川 功太郎
836-4831
中通二丁目3-8(アトリオンビル1階)

(有)嵯峨電業

電気工事
嵯峨 博美
835-0742
横森三丁目7-1

(株)ジェイズ

飲食店(定食、ラーメン)
田中 銘 誠
893-5828
山王六丁目8-37 (406)

東光コンピュータ・サービス(株)秋田支店

コンピュータ関連機器の販売、
ソフトウェアのシステム設計開発等
藤盛 公之
867-7255
保戸野八丁目25-7

(株) RINGSPRO

経営計画策定支援、月例経営
会議支援、各種セミナー開催
武田 亨
853-1497
広面字碓1-7

(株)田沢湖自然ファーム

秋田営業所
豚の飼育・放牧・その他養豚に
関する事業、レストランの経営等
金子 裕二
838-1206
新屋勝平町3-50

奥山亭

ラーメン店
奥山 大輔
893-3115
山王一丁目12-28(黒川ビル101)

4/18 商工中金様より秋田杉のベンチが寄贈されました

商工中金秋田支店様より、県経済の活性化に向けた業務協力の一環として、秋田県商工会議所連合会(三浦廣巳会長)に秋田杉製ベンチ(製作:当所会員萩原製作所)6台が寄贈されました。寄贈されたベンチは県内の6商工会議所に設置され、当所では商工会館1階のロビーで、訪れる人たちの憩いスポットとなっております。



保険とリース、相続・事業承継の
ご相談はお気軽にどうぞ!!



株式会社
北日本ベストサポート

〒010-0967 秋田市高陽幸町8番17号 岸ビル内
TEL.018-883-1888 (代) FAX.018-883-1822
URL <http://www.knbs.jp>

一般貨物輸送・JR貨物コンテナ・倉庫・大型クレーン作業・重量物運搬/据付・引っ越し・海上コンテナ輸送・輸出/輸入通関業務・フェリー

運 秋田運送株式会社

代表取締役会長 石田 哲 治
代表取締役社長 近 藤 俊 一

本社 010-0802 秋田市外旭川字水口 155 - 1
TEL 018-824-1081 FAX 018-862-8751
URL <http://akitaunso.co.jp>

秋田県信用保証協会

<http://www.cgc-akita.or.jp>



©光プロダクション



「資金繰りを安定させたい」
「経営の相談をしたい」
「新しい分野に挑戦したい」
「事業をはじめたい」

お気軽にお問い合わせください

秋田事業部

TEL 018-863-9016
〒010-0923 秋田市旭北錦町1-47
秋田県商工会館2階

これからの行事

～お待ちしております～

月日	行事	時間	場所
5/16	芸術文化ゾーン活用講演会	14:00～	にぎわい交流館 AU
5/16	秋田港振興会総会	17:30～	ホテル大和
5/22	常議員会	12:00～	当所 7F
5/22	工業部会（企業視察）	14:00～	ユナイテッドリニュー -アールエナジー(株)
5/24	女性会定時総会	15:00～	秋田キャッスルホテル
5/26-28	これが秋田だ! 食と芸能大祭典	26日 15:00～ 27日 10:00～ 28日 10:00～	なかいち、 アゴラ広場、 広小路ほか
5/30	通常議員総会	17:00～	秋田ビューホテル
6/7	高速自動車道整備にかかる 情報交換会	11:00～	秋田ビューホテル
	秋田日本海沿岸東北自動車 道早期建設期成同盟会総会	11:30～	
6/7	秋田異業種交流会総会	18:00～	秋田ビューホテル
6/9	秋田地区エネルギー懇談会総会	16:00～	イヤタカ
6/13-14	ビジネススクール凌雲塾 「中級管理職研修」	9:30～	当所 7F
6/13	RESAS活用セミナー	13:30～	秋田キャッスルホテル
6/21	戦略的販路拡大セミナー	13:30～	ホテルトロピカン秋田



☞は、今月のととく情報便で詳細を確認できます



改訂 あきた郷味風土記
絶賛販売中!!

「改訂あきた郷味風土記」は、
県内書店、道の駅、産地直売所
にて販売しております。
詳しくは当社ホームページで
ご確認ください。

<http://www.kappan.co.jp/>
【発行】秋田県農山漁村生活研究グループ協議会
【販売元】秋田活版印刷株式会社

秋田活版印刷株式会社
TEL.018-888-3500(代) FAX.018-888-3505
【東京営業所】TEL.03-5927-8101
【名古屋営業所】TEL.052-251-5080

A4判 116頁
フルカラー

2,000円
(税別)

芸術文化ゾーン活用講演会のお知らせ

秋田市では県・市連携文化施設整備、旧県立美術館の活用により、周辺の既存文化施設との相乗効果を発揮することで、一帯を「芸術文化ゾーン」として面的に充実させ、中心市街地の魅力を高めたいと考えております。

そのゾーン概要を説明するとともに講演会を開催しますので、参加ご希望の方はお電話でお申込みください。（入場無料）

日時 5月16日(火) 14:00～16:00
場所 にぎわい交流館 AU 3階 多目的ホール
テーマ **「アートによるまちづくり」**
～開館50周年 美術館が目指すもの～
講師 秋田県立美術館 館長 平野 庫太郎 氏
申込先 まちづくり推進課 ☎866-6676

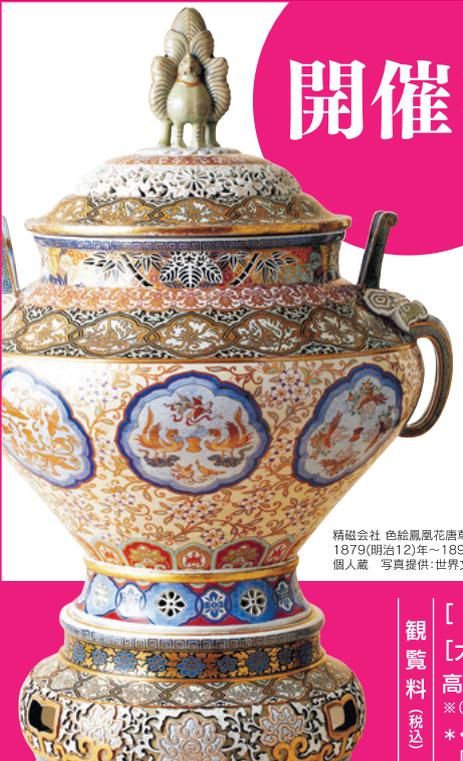
7月号恒例企画

暑中見舞広告 募集のお知らせ

本誌は会員企業をはじめ、関係官庁・団体などへ毎月5,400部お届けしております。
7月号恒例の本広告を夏のごあいさつや企業PRなどに是非ご活用ください。

- ◆ 広告サイズ：たて6cm×よこ3.5cm
- ◆ 掲載料金：税込み7,560円
- ◆ 掲載事項：①事業所名 ②住所 ③代表者名
④TEL ⑤マーク など

- ◆ 申込締切日：6月5日(月)
- ◆ 申込・問合せ：企画振興課
TEL 866-6679 FAX 862-2101



開催中

有田焼創業400年記念

明治有田 超絶の美

万国博覧会の時代

2017年
【会期】6月18日(日)まで【会期中無休】
開館時間：午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

【会場】秋田市立千秋美術館
秋田市中通二丁目3-8(アトリオン)

■主催：明治有田超絶の美展実行委員会(秋田市立千秋美術館) 秋田県報社
■後援：佐藤真／有田町NHK秋田放送局／ABS秋田放送／KST秋田テレビ／
AAB秋田放送／エムエム秋田／CNA秋田ケーブルテレビ
■特別協力：世界文化社 ■展示協力：工科大学
■協力：有田ポリンパク／香蘭社／佐藤真立九州陶磁文化館
■企画協力：西日本新聞社

精進会社 色絵鳳凰花唐草文透彫大香炉
1879(明治12年)～1897(明治30年)頃
個人蔵 写真提供：世界文化社

観覧料(税込)

[一般] 1,000円(800円)
[大学生] 700円(560円)
高校生以下無料

※()内は20名以上の団体および障がい者割引料金
*くるりん周遊バスで観覧の場合
[一般] 700円 [大学生] 500円

明治有田超絶の美展 × 春の院展 × 秋田県立美術館

千秋美術館1階チケット売場で、明治有田超絶の美展の当日券を購入する際に、春の院展の観覧券(半券可)もしくは、平野政吉の夢～壁画30年コレクション公開50年～(秋田県立美術館)の観覧券(半券可)を提示すると、明治有田超絶の美展が団体割引料金でご覧いただけます(一般1000円→800円/大学生700円→560円)。
※他割引と併用はできません。※使用前チケットもご利用いただけます。
※1枚につき、お一人様、1回限り有効

<お問い合わせ> 秋田市立千秋美術館 TEL.018-836-7860

③ 二〇一〇年のあゆみ
⑤ 二〇一〇年のあゆみ
⑦ 二〇一〇年のあゆみ
⑨ 二〇一〇年のあゆみ
⑪ コレアキッ!
⑬ 専門家経営相談
⑮ 補助金等企業支援施策
⑰ お知らせ

創刊第一号「商工秋田」

創刊第一号

業者の機関紙 香五秋田

秋田県商工会議所月報 社団法人秋田県商工会議所

県内 使用者団体結束!!

秋田県経営者協会生る

「農産 労働法施行以来、労働者側の結束した機関の...

月報発刊に際して



秋田県商工会議所 会長 西村慶造

八月は経緯いたしました。終戦以来三年、敗戦日本の現状は海に惨たんたるものがあり、各業種業共通の難関が大きい...

のち秋田県内各業種団体設立を促進、これが第一回準備委員会を四月二十三日開議...

- 秋田県商工会議所 会長 西村慶造
秋田県商工会議所 副会長 伊藤 進
秋田県商工会議所 事務局長 伊藤 進
秋田県商工会議所 庶務 伊藤 進
秋田県商工会議所 庶務 伊藤 進

月報発刊に際して

秋田県商工会議所が設立されてから六ヶ月が経過いたしました。終戦以来三年、敗戦日本の現状はまことに惨たんたるものがあり、各業種業共通の難関が大きく横たわり、尋常一様の手段方法ではこれを打開することは至難であります...

現下の最大案件の一たる賠償問題から申しまして、従来の大工業の大部分の施設が近く撤去の運命にさらされ、今後行くべき経済の構造は平和産業を中軸とした二八〇度の転回を余儀なくされ、中小商工業の再編成・復活問題が大きくクローズアップされてまいりました。
当所としまして、中小商工業の育成助長は設立当初より命題であり、今後これらの線に沿って二段の努力を致す覚悟ではあります...

会頭 西村 慶造 (昭和二十二年六月一日)

※原文の一部を現在の一般的な表現に意識しております